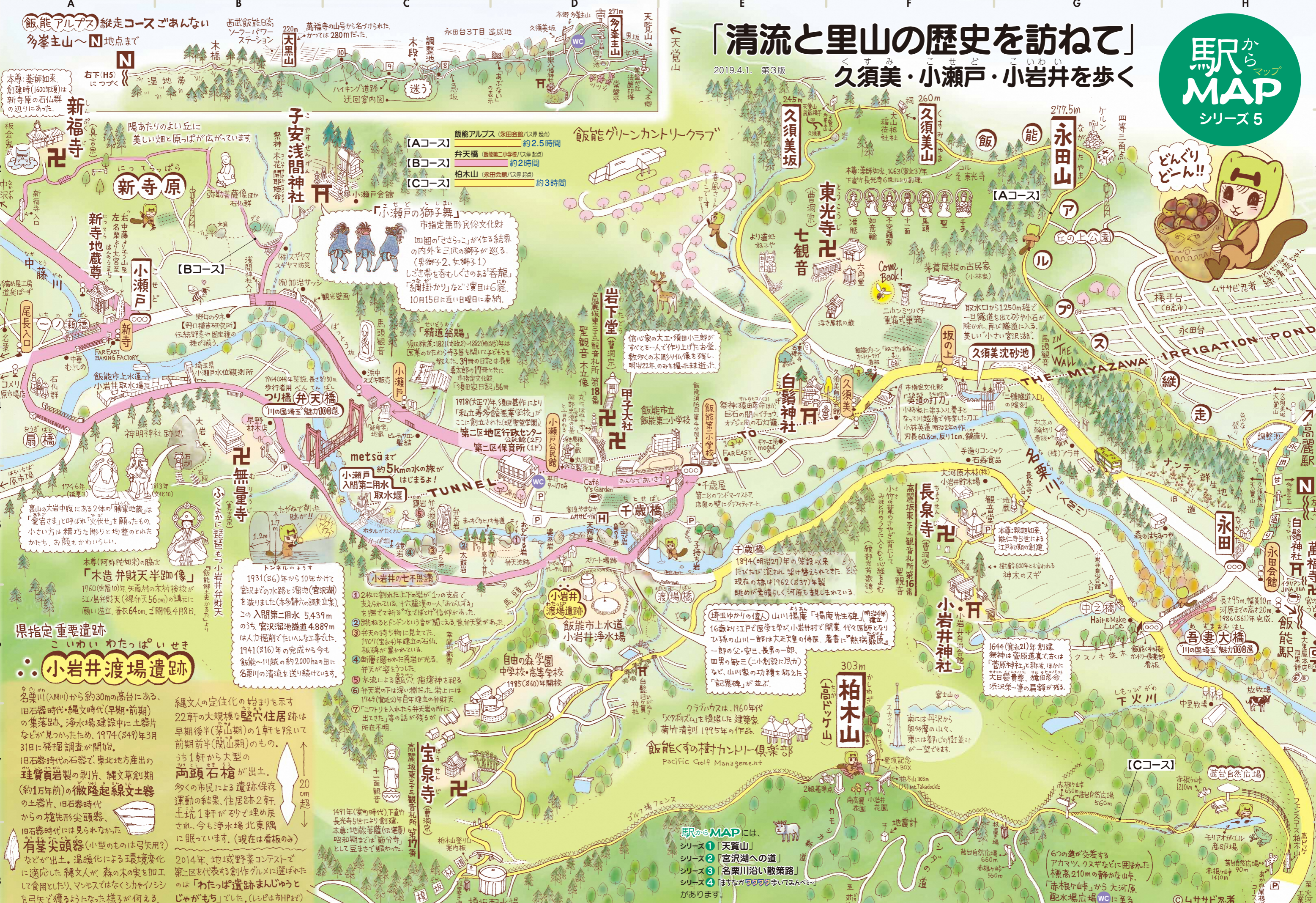


駅からMAP シリーズ5

「清流と里山の歴史を訪ねて」 久須美・小瀬戸・小岩井を歩く

2019.4.1. 第3版



- 飯能アルプス (家田会館/以厚 起点)
- [Aコース] 約2.5時間
 - [Bコース] 約2時間
 - [Cコース] 約3時間

「小瀬戸の獅子舞」
市指定無形民俗文化財
四曲の「せざらこ」が作る糸界の内外を三匹の獅子が巡る。(男獅子2、女獅子1) じざ帯を巻くじざの「呑龍」「氣胸掛かり」など演目は6度。10月15日に近い日曜日に奉納。

「精進翁良馬」
須田精進(1821(文政2)~1882(明治15)年)は医業のかたわら寺子屋を開いて子どもを教えた。39冊の日記は長男重太郎の17冊と共に市指定文化財「須田家日記」56冊

1918(大正7)年須田基作により「私立多善商業学校」がここに創設された(現聖望学園) 第二区行政センター 公民館(2F) 第二区保育所(1F)

- 小岩井の七不思議**
- 2枚に割れた上下の岩が1つの支点を支えられている。十六羅漢の一人「おひんぎ」を無事で祈る「おひんぎ」信仰があった。
 - 跳ねるおひんぎの音に聞こえる。昔、弁天堂があった。
 - 弁天の持ち物に見立てた。1707(宝永4)年建立の石仏、板碑が置かれている。
 - 断崖が隠れた岩角が光る。弁天が姿をうつした。
 - 水流による風穴。酒神を祀る。
 - 弁天岩の下は深い淵だった。岩上には1749(寛延2)年建立の弁天堂。
 - 「二ツツリを入れたら弁天岩の所に「出てきた」等の話が残るが所在不明。

新福寺
本尊・薬師如来。創建時(1600年頃)は新寺原の石仏群の辺りにあった。

新寺原
陽あたりのよい丘に美しい畑と原っぱが広がっています。

新寺地蔵尊
左中藤子山至右名栗大宮至

新寺
飯能市上水道 小岩井取水場

無量寺
本尊(阿弥陀如来)の脇に「木造弁財天半跏像」

木造弁財天半跏像
1760(宝暦10)年、矢嵐村の木村棟校が江戸島弁財天(総弁天56cm)の講立に願い造立。着衣64cm。ご開帳4月8日。

小岩井渡場遺跡
名栗川(入間川)から約30mの高台にある。旧石器時代・縄文時代(早期・前期)の集落跡。浄水場建設中に土器片などが見つかったため、1974(昭和49)年3月31日に発掘調査が開始。

縄文人の定住化の始まりを示す22軒の大規模な堅穴住居跡は早期後半(茅山期)の1軒を除いて前期前半(蘭山期)のもの。うち1軒から大型の両頭石槍が出土。

多くの市民による遺跡保存運動の結果、住居跡2軒、土坑1軒が砂と埋戻され、今も浄水場北東隅に眠っています。(現在は看板のみ)

2014年、地域野菜コンテストで第二区を代表する創作グルメに選ばれたのは「わたがし遺跡まんじゅうとじゃがもち」でした。(レシピはHPまで)